

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に基づき事業所理念を作ることで毎年各ユニットの理念を作成しかかげ道しるべとしている	○	地域とのつながりを理念の中に取り込むことで意識する
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケース会議やミーティングの際に、理念に沿ったケアが出来ているか振り返っている。また、ホーム内へのや、利用者や家族、職員の目の届く所に掲示して意識を促している。		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	行事に取り込むことで交流を図ったり地域に出向き利用者が安心でいる環境の提供に心掛けている		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な買い物や散歩、行事などを通じて近隣との関係が途絶えないように配慮している。	○	今後もより個別性を大切にしながら、可能な限り近隣との関係性を維持していきたい。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間の行事に取り込むことで交流が途絶えないように心掛けている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員については、内部研修や外部研修を通じ、専門的な知識を取得できるような体制をとっている。また、運営推進会議等を通じて地域の状況把握や認知症ケアについての相談等を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今自分たちがどこができていて出来ていないかを評価して頂くことでみつめ直しミーティング等行い次への取組みにいかしている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会のなかで色々な声を聞くことで職員会議等で伝え話し合いを持ちサービス改善に向けて取り組んでいる		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に地域密着型サービス連絡会等を活用し行政機関との連携体制の構築に努めている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度などについての学ぶ機会が法人、事業所単位であったが、現在では勉強会の実施はできていない状況にある。必要性がある利用者については関係機関と連携をとりながら情報提供は可能である。	○	今後も、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての学ぶ機会を作って行きたいと考えている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや職員会議等を使って出来るだけ学ぶ機会を多くとるようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まず御本人やご家族に納得されるまで話して頂き尋ね聞くことで不安を取り除く努力をしている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満苦情を細かいことまで取り上げ記録に残し改善点に向けてミーティングを行い寄りよい暮らしを提供出来るよう心掛けている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話連絡にて報告したり毎月のホーム便りにて日々の細かい様子など担当職員にてコメント入りの送付を行いホームでの様子がとだえないように心掛けている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関口に意見箱等を設置したり、定期的にはホーム便りにて機会を設けている。また、行事や面会に来られた際に意見等、引き出せるようにしている。また、今年度より事業計画の説明と利用料金改定についての説明会を実施し、ご家族の意見を反映するための取り組みを行った。	○ 今後も、ご家族等の方が意見が聞けるような機会を作って行きながら運営に反映していきたいと考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、内部研修を行い意見を聞いている。また、朝礼を利用し問いかけたり聞き出したりするようにしている。	○ 会議の場に限らず、職員の意見が反映できるような取り組みを今後も実施していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や研修等は、可能な限り多くの職員でケアできるよう調整を行っている。ローテーションを組んでおり柔軟に職員の配置を考えている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニット合同の朝礼を行っており、他のユニット職員でも利用者の状況がわかるように配慮している。また、法人内の異動もあるのでその後も顔を出したりしてできるだけ変化のないように配慮している。	○ 法人単位での異動もあるために、事業所内に限らず、今後も配慮をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内・外の研修を計画的に実施しながら質向上を図っている。また、法人単位での段階に応じた研修体系もあり実施している。また、個別面談を行い個別の年間目標を立てる等向上心を持たせている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者間の意見交換が出来るような会議への参加や専門的な知識や情報が得られるような勉強会などの情報提供も随時行っている。。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフのストレスを出来るだけ解消するために個別面接を行い悩みや相談事などを聞き取る機会を設けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得取得に向けての内部研修、勉強会の実施、情報提供を行っている。また、人事考課制度を取り入れ、各人が目標を立てて向上心がもてるように配慮している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面会に行き、その方の様子(生活状況・身体状況)をある程度把握し、現場の職員に報告している。	○ 入所までに全職員が、面会に行ける環境を作っていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申請から入居に至るまでに納得のいく説明ができる機会を作っている。	○ 待機中も密に面会等を通じて情報交換をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医や地域のケアマネージャー等と連携を図りながら関係機関との柔軟な支援が出来るように心がけている。早急な対応が必要な相談者には他のサービス機関を紹介するなどしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までの生活を大切にしながら家族の方々にも協力を頂き不安を取り除く事を一番に考えるよう配慮している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で出来ることは共に一緒に作業したり、行動、会話、などあらゆる場面で活動することで学び一緒に過ごす一体感を感じることができる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	どんな小さい事でもお知らせし一緒に考え、また面会等で相談したりされたりの関係作りに心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの生活暦を本人・御家族共に傾聴し、ホーム便りにて近況報告を行い、御家族や知人の方々が面会に来やすい環境作りに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅に帰る機会を作ったり、顔なじみが集まる場所(病院・デイサービス)等で交流が図れるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂でのお茶飲みや食事を通し、関わり合いの場を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用(契約)が終了した利用者や家族についても、電話や手紙等のやり取りをしている。また、広報誌も送付して事業所の取り組みも啓発している。	○	今後も疎遠にならないよう広報誌等を送付し、継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族や本人からの直接の情報収集の他、それまでに関わった関係者等から情報収集を行い、本人の意向の把握に努めている。	○	意向を直接伝える事のできない方については、普段の会話や表情で検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報収集に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員一人一人の気付きを出し合い、ミーティング等で話し合い把握するように心がけている。	○	意思を伝える事の出来ない方については、会話や表情で読み取るようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人との会話の中でまた、家族からの情報収集により生活歴等を知り意見や要望を確認した上で介護計画が作成されている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なミーティングで現状の把握と評価が行なわれており、介護計画の内容を検討した上で必要に応じて計画の見直しが行なわれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事をケース記録や引継ぎ帳に記入し、必要に応じてミーティングを行い検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今年度より医療との連携体制をより充実し、利用者の状態に応じた支援を実施している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の開催や総合防災訓練時に消防署や駐在所などに協力を依頼しながら連携を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を基に、往診や協力医療機関、その他のかかりつけ医等から適切な医療が受けられるように連携を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医との連携を図り、必要に応じて専門医療機関への受診も実施している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回訪問看護を実施しており、日頃の健康管理、医療間の相談・助言、対応が気軽にできている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時については、御利用者が安心して生活できるように情報提供を行い、頻繁に職員が見舞いに行っている、入院中についても家族との情報交換を図りながら退院後の生活について検討している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族説明会を実施し、事業所が対応しえる最大のケアについて、又医療機関・職員間でも随時連携を図るようにしている。	○	御利用者・御家族の希望を尊重しながら、主治医との連携を密に図り検討していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来るだけグループホームにて対応する様に努力しているが、その方の状況悪化(食事摂取困難等)が出てくると対応が難しいので主治医の判断で、入院という形をとっている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境が変わっても生活が継続できるように支援内容や注意事項等を記載した情報提供表を活用し、連携を図るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	敬意を持った言葉掛けをおこなうと共に、日常のケア(特に、入浴・排泄・更衣)もプライバシーに配慮しながらおこなっている。また、個人情報の重要性を内部研修等で学び、意識付けをしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	多くの場面で自己決定が出来るよう話し、支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを重視し、ご希望や想いに添って柔軟な対応が出来るよう努めている。	○ すべて一緒にではなく、食べたい時に食べ、起きたい時に起きる本人本意に取り組んでいる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしさが出るよう配慮している。美容院については、ご希望の場所にお連れしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご希望や力に合わせ、献立の変更や特別メニューにするなどしている。現在、日常的に一緒に準備・片付けはしていないが、行事(味噌作り)の際は積極的に準備段階から参加してくださっている。	○ その方の状態観察をし、キザミ・ミキサー・とろみ食への対応をしている。また、それらの食事を写真に撮り、摂取量等を含め、ミーティング等で検討している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の望むものについては主治医や家族と話し合い、適量を判断していただき提供させていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	基本的にトイレにて排泄が出来るよう、誘導をおこなっている。トイレでの排泄が難しい方も、不快な思いをしないよう、こまめなパット確認・交換をおこなっている。	○	その人のふとした行動や姿勢からタイミングを見逃す事なく排泄への声かけを行なっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めてはいるが、ご希望や状態に応じて臨機応変に対応している。必要な方は入浴日以外は清拭を実施している。	○	入浴拒否が続く方に関しては、気持ちよく「はいりたい」と思っただけのような声かけや雰囲気作りに取り組んでいきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的な生活の流れの中、一人一人の睡眠リズムに合わせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活作業や庭の手入れ等、自然と役割りを持って生活できるよう支援している。また、感謝の気持ちを表し、負担にならないように配慮している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の中には小額ではあるが金銭を所持している方もおられる。ご利用者の能力に応じ、外出の際、ご自分で会計が出来るよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご希望に添って、買い物やドライブ・帰宅等が出来るようにしている。また、職員側から声をかけ、外出の機会をつくっている。	○	日中の散歩を外出の難しい方を中心に天気や体調を見ながら実施している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一回程度の個別外出の機会を設け、少数での外出をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればご本人が電話できるようにしている。月一回の便りの発送もおこなっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に立ち寄れるようにしている。面会時はホールや居室でゆっくりくつろげる様な空間作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等で正しく理解し、ケアにあたっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上、窓や玄関を施錠しているが、日中はすべて開放している。居室に関しては職員側から施錠することはない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日常生活の流れを把握し、特に屋外での活動時にはご本人が不快にならない程度に一緒にいたり、声を掛けている。夜間は定期的に巡視を行い、緊急時に備えている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の能力に応じ、危険な物、そうでない物を話し合い把握している。刃物等に関しては、職員が立ち会うことで危険を回避している。	○	保管する場所を全職員が把握し、危険のないよう取り組んでいる。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常にお一人お一人の状態を把握し、ケアにあたっている。防止策としてヒヤリハットの作成、ミーティングでケアの見直しを行なっている。事故発生の場合は事故報告書を作成し、次につなげている。	○	ヒヤリハットの回覧をし、職員全員が事故防止に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ケース会議・内部研修等で勉強会を行なっている。緊急対応時には連絡網をもとに、主治医や職員、併設事業所との連携が図れるようにしている。	○	実技訓練も職員会議等で出来ればいいと思う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回の総合防災訓練を実施し、行政機関や消防署、地域の消防団にも協力を依頼している。また、併設事業所にも協力を依頼し、ご利用者と共に訓練を行なっている。	○	消火器の近くに物品を置かないようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人・家族の希望を確認し、支援方法については事前に同意を得るようにしている。職員間でも常に情報を共有し、状態把握に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝血圧測定や検温を行ない、表情や体調を見て、必要に応じて経過を記録している。週一回の訪問看護や往診の際、医師への報告・受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人に処方されている薬の文献をいつでも見れるようにケース記録と一緒に綴っている。服薬時はその都度ご利用者に手渡し、または介助にて服薬していただいている。	○	ご本人の理解力に応じて、内服の説明を行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	内服だけに頼らず、出来るだけ自然な形で排便が出来るように食事内容を工夫している。それでも難しい場合は主治医に報告し内服にて調整している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけや介助にて口腔ケアを行なっている。就寝前は義歯の消毒・洗浄を行なっている。	○	自立の御利用者への声かけを増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や排便を記録し、状態把握に努めている。身体状況に応じて、食事形態や水分補給方法を工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防の徹底と共にマニュアルに添って対応している。また、勉強会を開き、早期発見・対応する様努めている。	○	今後も新しい情報を察し、早めに感染症の流行に随時対応できるようにしたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾等は漂白剤にて消毒をしている。また、冷蔵庫内を細かくチェックし管理をしている。	○	食品管理係と衛生管理係と協力し、徹底した取り組みを行なっていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に花やベンチを置き、華やかにし気軽に來て頂けるような空間作りを行なっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所には小物や花を置き、季節感を出す工夫をしている。また、食堂やトイレ等は必要に応じ清掃し、心地よく過ごしていただけるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの畳スペースや各所に置いてあるソファにて思い思いの時間が過ごせるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、ご自宅で使用されていた家具を置いている。ご本人の動線に合わせた配置で安全面にも配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を心がけている。また、居室・ホールに空調を設置しているが、なるべく自然に近い状態が保てるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状態・状況にあわせ、安全かつ自立に繋がるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ケース会議やミーティングを開き、その人らしく生活できるように話し合い、検討している。	○	混乱や失敗した時に、安心した声かけを全職員取り組んでいる。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇を作り、ご利用者と共に手入れをしている。また、中庭を開放し、ご利用者が植木や花の手入れを存分に出来るようにしている。玄関先にはベンチを置き、日向ぼっこが出来るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年度のユニット理念として、「あなたの想いを伝えてください。怒って・笑って・泣いて・語ってスッキリして下さい。聞くことしか出来ない私達ですけど」を掲げ、ケアにあたっています。ご利用者と職員が1対1で会話をする時間が多く、濃いコミュニケーションが取れています。また、中庭を活用し花作りをされているご利用者がいらっしゃり、ご利用者のこだわりを存分に発揮できる空間作りに努めています。